

二〇二六年二月二日（参加者一五名）

春寒し青空なれど雲奔る	よし女
下萌の土堤を転がる笑ひ声	きりん
春寒や天井の龍睨む堂	むべ
下萌に延べる野点の緋毛氈	澄子
春寒し甘味処へエスケープ	なつき
下萌や散歩の靴のいや軽し	よし女
春寒や煤光りせる蔵の梁	わかば
下萌を促してをる今朝の雨	わかば
草萌ゆる国衙跡の広さかな	むべ
下萌に座すまなかひに伊吹山	きりん
春寒し山の稜線まだ覚めず	花茗荷
下萌ゆる名草醜草へだてなく	澄子

若鮎句会秀句・みのもる選・二〇二六年二月二日